

輸血・細胞治療部

■ スタッフ

部長	大石 晃嗣
副部長	松本 剛史

医師数	常勤	2名
看護師	非常勤	1名
検査技師	常勤	4名
	非常勤	1名
	(認定輸血検査技師)	4名
事務	非常勤	1名

■ 部門の特色

三重大学医学部附属病院輸血・細胞治療部は、輸血、細胞治療、移植、止血など様々な臨床的ニーズに答えるべく、積極的に検査および活動を行っています。

■ 活動実績

1. 業務実績

- 血液製剤の管理：製剤の入庫・出庫・交差試験等を行っており、2019年度は、RBC 5,146本、FFP 4,284本、PC 3,139本が使用されています。必要に応じて血液製剤の合成、分割、洗浄を行っています。アルブミン製剤、フィブリノゲン製剤の一元管理を実施し、血漿交換のためのアルブミン置換液の調整等も行っています。
- 輸血検査：中央検査部の協力のもと、24時間体制で輸血検査を行っています。院内だけでなく判定の難しい院外の病院の輸血検査も実施しています。
- 自己血採取：認定看護師を中心に、2019年度は、308件の自己血を採取しました
- 細胞治療支援：2019年度は14件の造血幹細胞採取、1件の骨髄濃縮を実施しました。移植カンファレンスにも参加し情報共有に努めています。CAR-T療法のためのT細胞採取、臓器移植に必要なHLA検査、HLA抗体、クロスマッチ検査も実施しています。整形外科の椎間板再生医療のため自己血からPRPを11件作製しました。

- 止血管理：クリオプレシピテートを作製し、術中や多発外傷などによる大量出血時の止血療法の支援を行っています。
- 血液型カード：不規則抗体のある患者さんに血液型カードを発行し、緊急時の輸血に役立ててもらっています。

2. 教育活動の実績

- 医学部3,5年生、看護学生1年生への講義
- 新研修医とクリニカルクラークシップの学生への実習と講義
- 臨床検査技師学生への臨床実習
- 認定輸血検査技師制度指定施設研修
- 学会認定・輸血看護師制度指定施設研修

3. 臨床研究等の実績

- 日本輸血細胞治療学会の「クリオプレシピテートの院内調整基準作成タスクフォース」の委員長として統一プロトコールを作成した。

■ 今後の展望

今後も、成人ならびに小児・新生児の輸血のサポートや、周術期・救急での輸血・止血管理、移植・再生医療の支援に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)